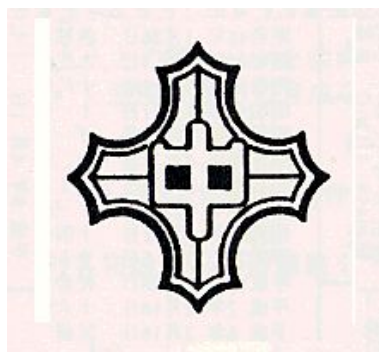


平成21年度
目黒区学力調査と改訂授業改善プランについて



- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 「目黒区学力調査」に基づく授業改善プラン
 - ・全体構想
 - ・第1学年～第3学年

平成21年7月
目黒区立第十中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

| | 1 年 | 2 年 | 3 年 |
|-----|------|--------|--------|
| 対象数 | 130人 | 111人 | 135人 |
| 実施数 | 130人 | 109人 | 132人 |
| 受検率 | 100% | 98, 2% | 97, 8% |

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識など

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科

2年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

3年 意識調査、国語、数学、英語、社会、理科

(3) 実施日

平成21年4月14日（火）

II 目黒区学力調査に基づく授業改善プラン

学校教育目標

自らの課題を追求し、主体的に生きる個性豊かな生徒の育成を図る。

- ア 責任感のある生徒を育成する
- イ 思いやりのある生徒を育成する
- ウ 実行力のある生徒を育成する



教育課程届における指導の重点

- 1 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、生徒が興味や関心をもって授業に取り組むよう指導の工夫及び学習内容の一層の精選・明確化を図るとともに学習指導員やALTを積極的に活用していく。
- 2 グループ学習や発表活動、スピーチ、討論、漢字・英単語コンテストなど多様な学習活動を通して、自ら学ぶ意欲を高める。また、コンピュータなどの情報機器を効果的に活用することにより学習効果の向上を図る。
- 3 選択教科の内容を充実させる。特に国語、数学、英語については基礎的コースと発展的コースに分け、生徒の能力に応じて対応する。また、校外での体験学習も実施できるよう工夫する。

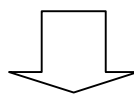


本校の学力向上に向けた視点 (学校全体)

| 指導方法等の工夫 | 教育課程編成上の工夫 | 校内研修・研究の工夫 | 評価の工夫 | 家庭や地域社会との連携の工夫 |
|--|--|--|--------------------------------------|---|
| 思考と発見を繰り返す過程において、生徒自ら主体的に学習できるように工夫する。 | 総合的な学習の時間のまとめどりや、行事の見直しを行うことにより、必修教科の時間数を確保する。 | 互いの授業を公開し、教員相互で授業の評価をする。また、区や都の研修に積極的に参加をする。 | より客観性の高い評価を目指し、生徒がさらなる目標をもてるように工夫する。 | 公開授業や授業参観、見学会等を実施することにより、学校情報の発信とともに家庭・地域からの意見を伺う機会とする。 |

区学力調査の結果から見られる成果と課題

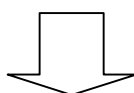
| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 |
|--|---|----|---|--|
| <p>話す力・聞く力：目標値からは良好といえる。授業を通して、より一層話すこと・聞くことのできる能力向上に努めていく。</p> <p>読む力：目標値からは良好といえる。</p> <p>書く力：書くことの基礎を教え、書く機会を増やし、日常的に書くことを習慣化させていく。</p> | <p>目標値を上回り良好である。数学的な表現や処理は高い。数学的な見方や考え方はやや課題がみられる。定着を図るための反復練習が必要である。また、問題解決型の課題を多く提示し、生徒自らが問題を解決しながら理解を深めていく時間を増やしていき、定着を図る。</p> | | <p>教科全体においては、目標値をやや下回っている。</p> <p>観察・資料活用に関する理解についての課題がややみられ、特に社会的な思考・判断については課題がみられる。応用力を高めることを視点において発問、問題を増やす。</p> | <p>「基礎」「応用」の数値は、目標値を大きく上回っている。ただし、それぞれの内容を観点別に見ると「知識・理解については」良好だが、「科学的な思考」と「応用」においては、改善の余地がまだ見られる。</p> |



学力向上のためのポイント

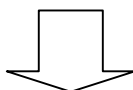
| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 |
|--|--|---|---|---|
| <p>朝の読書活動の充実や新聞を日常的に読むことを勧めるなど、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせる。</p> | <p>日常的に家庭学習を行うよう指導し、身のまわりの事象を題材とすることにより、数学的な活動に対する興味や関心を高め、論理的な思考の経験を積ませていく。</p> | <p>英語をできるだけたくさん聞く機会を設定することが「聞くこと」の指導には最重要である。そのためには、ALT（外国人英語指導員）とのチームティーチングの工夫を図る。</p> | <p>新聞やテレビ等の視聴覚教材を活用する等、身近な題材を教材に取り入れることにより、自ら主体的に考え、判断できる授業展開のくふうを図る。</p> | <p>実際に実験をする機会をなるべく多くもち、イメージ化、個別化した教材を作成し理解力を高める。また、理解する段階に合わせて自作プリントを作成し、応用力を身に付ける。</p> |

| 区学力調査の結果から見られる成果と課題 | | | | |
|--|---|---|--|--|
| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 |
| 昨年度の達成率と比較し、教科総合で向上している。特に「基礎」においてはほぼ全員が達成している。書く力、応用力がやや弱い。文学的文章に課題がみられる。 | 昨年度の達成率と比較し、教科総合で向上している。昨年度課題であった「数学的な見方や、考え方」も大きく向上したが、さらなる向上を目指すことが課題である。 | 基礎・応用とも、目標値を大きく上回り、たいへん良好である。リスニングはさらに音声指導を強化し、到達度を上げることが課題である。 | 昨年度の達成率と比較し、「応用」が向上している。しかし、「社会的事象についての知識・理解」においては課題がみられる。 | 昨年度の達成率と比較し、「観察・実験の技能・表現」において成果がみられる。しかし、「応用」と「科学的な思考」に関してはまだ改善の余地が見られる。 |



| 学力向上のためのポイント | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 |
| 書く力は、折りに触れ、書かせる作業を取り入れることで、個人差に対応していく。また、朝読書を通して文学的教材への興味・関心をもたせたい。 | 応用力を高めるために、読解力を養う。そのためには、ねらいを明確にした文章題を提示し、数量の取り出し方や関係の調べ方を徹底し、数学的な表現（式・グラフ・表）の体験的な活動を積みさせる。 | 「理解」の能力を高めるために読む力を向上させる。そのために、さまざまな話題の英文を聞かせ音声に慣れさせることが重要である。また、語彙を増やすとともに、音読指導の充実を図っていく。 | 地図や資料集を活用して知識の定着を図る。視聴覚教材や自作のワークシートを活用する。さらに、小テストを実施し、知識の定着に努める。 | 自作プリントを活用することにより、応用力と「科学的な思考」を高める。導入段階で生徒の興味や関心を高める工夫をする。家庭学習についての指導も工夫する。 |

| 区学力調査の結果から見られる成果と課題 | | | | |
|--|--|---|--|---|
| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 |
| 昨年度の到達度と比べ「基礎」「応用」ともに向上した。観点別では、「読む力」「書く力」は高い達成率である。反面、「話す・聞く力」にやや課題がみられる。 | 昨年度の到達度と比べ、「数学的な見方や考え方」は向上したが、「数量、図形などについての知識・理解」に課題がみられる。 | 昨年度の到達度と比べ、「言語文化理解」「表現」「応用」が向上した。これは、文意を適切に伝える指導や、語彙・文型・文法事項の定着を図る指導の成果である。 | 昨年度の到達度と比べ、目標値はすべて上回っているが、その幅は下がった。世界と比べてみた日本・近現代の日本と世界に課題が見られる。 | 昨年度の到達度と比べ、向上しており、概ね良好である。しかし、「観察・実験の技能・表現」についてはさらなる向上を目指す。また、応用力については改善の余地が見られる。 |



| 学力向上のためのポイント | | | | |
|--|--|--|---|--|
| 国語 | 数学 | 英語 | 社会 | 理科 |
| スピーチやグループディスカッションを通して、人前で話すことに慣れる。そして自分の言葉で自分の考えをまとめ、伝える力を身につけさせる。また、要点を絞ってメモをとるような時間を多く設ける。 | ワークシートの工夫を図り、副教材で反復練習を重ねて、数量や図形の基礎的な概念や原理・法則の定着を目指す。 | 反復練習を適宜行い基礎力のさらなる定着を図る。表現の指導では、文を正確に書けることが重要である。そのためには、ALTを活用するとともに、文の構造を理解させるための文法指導の充実を図る。 | 生徒の興味関心を高める自作教材やビデオ等の視聴覚教材を活用し、自ら主体的に考え、判断できる授業展開を工夫する。また、新聞から時事的問題を取り上げ、社会科への意識を高める。 | 実際に実験をする機会をなるべく多くもつ。その際、実験前後の活動を工夫し、生徒の意識を高める。また、自作のワークシートを活用し、段階に応じて理解していけるように工夫する。 |